

DENSO

Crafting the Core

**2019年3月期 第2四半期
決算説明会**

2018年10月31日
株式会社デンソー



I .決算概要

2019年3月期 第2四半期 決算のポイント

1. 売上収益は、自然災害による影響があったものの、グローバルな車両生産の増加や拡販、および昨年11月のデンソーテンの子会社化などにより、増収
営業利益は、前期に発生した一過性の収益がなくなったことによる影響や、前期との費用回収タイミングのズレ、将来の成長領域への投資の加速などにより、減益
2. 第2四半期決算の業績及び為替の実績等を踏まえ、通期の営業利益予想を、前回より上方修正
3. 中間配当・期末配当ともに、5円ずつ増配し、年間では当初予想から10円増配の140円

2019年3月期 第2四半期 連結決算

()内は売上収益比

【単位：億円】

		18/9期実績		17/9期実績		増減額	増減率
売上収益			26,250		23,635	+2,615	+11.1%
営業利益		(5.8%)	1,524	(8.7%)	2,044	△ 521	△25.5%
金融収支等(※1)			178		223	△ 45	
税引前利益		(6.5%)	1,702	(9.6%)	2,268	△ 566	△24.9%
当期利益(※2)		(4.3%)	1,141	(6.5%)	1,542	△ 401	△26.0%
前提条件	為替レート	1ドル	110円	1ドル	111円	1円 円高	
		11-0	130円	11-0	126円	4円 円安	
	国内車両生産		447万台		454万台	△7万台	△1.5%
	海外日系車生産		1,023万台		989万台	+35万台	+3.5%
	(内、北米)		(290万台)		(301万台)	(△11万台)	(△3.7%)

(※1) 金融収益、金融費用、為替差損益、持分法による投資利益 (※2) 親会社の所有者に帰属する当期利益

DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会 / 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

3 / 27

<連結決算概要>

売上収益

2兆6,250億円（前年比 +2,615億円、11.1%の増収）

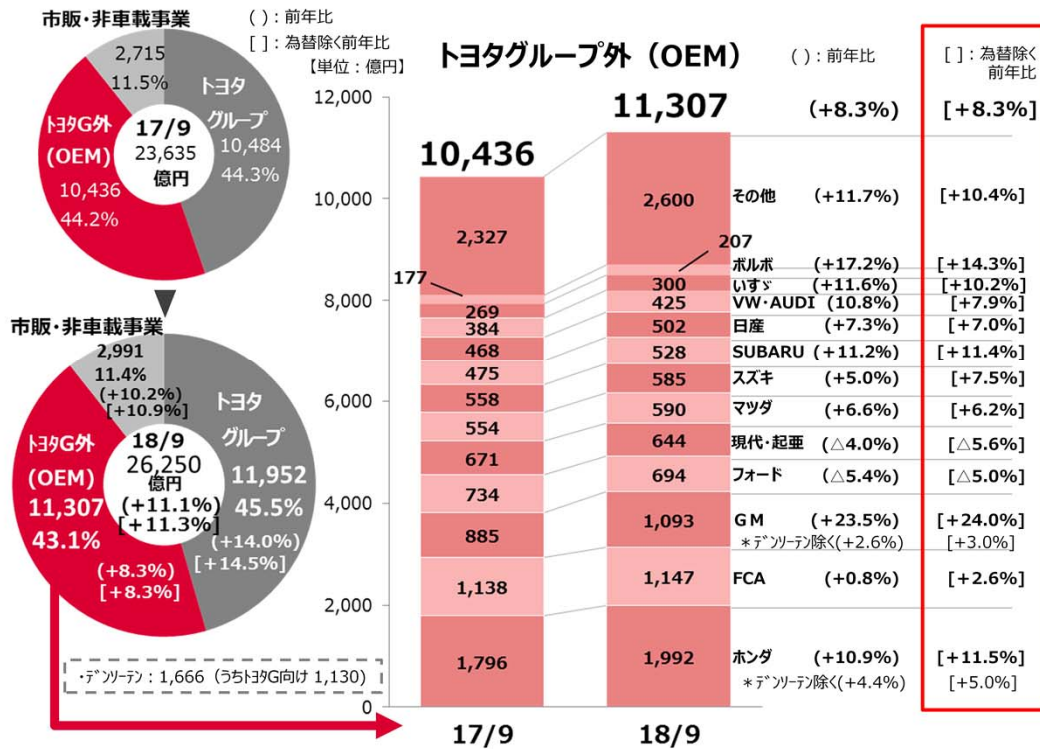
営業利益

1,524億円（前年比 -521億円、25.5%の減益）

当期利益

1,141億円（前年比 -401億円、26.0%の減益）

2019年3月期 第2四半期 売上収益（得意先別）



<得意先別売上（現地通貨ベース）>

トヨタグループ向け

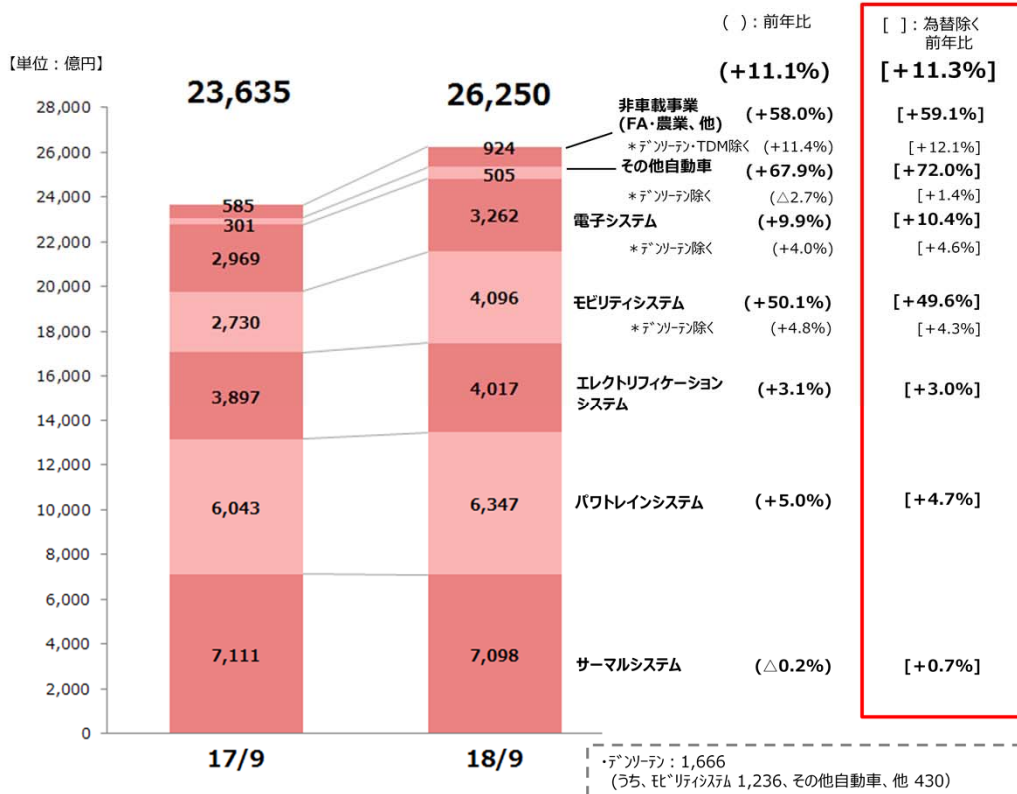
デンソーテンの影響や中国での車両生産、日本での予防安全製品の装着率拡大により、14.5%の増収。

トヨタグループを除くカーメカ向け

全体で8.3%の増収。（内訳は下記の通り）

- ホンダ：北米でのディスプレイ製品の拡販
日本での車両生産の増加
- FCA：北米での車両生産の増加
- GM：北米での車両構成の良化

2019年3月期 第2四半期 売上収益（製品別）



<製品別売上（現地通貨ベース）>

パワトレインシステム製品

アジア地域や日本での車両生産増加により、増収

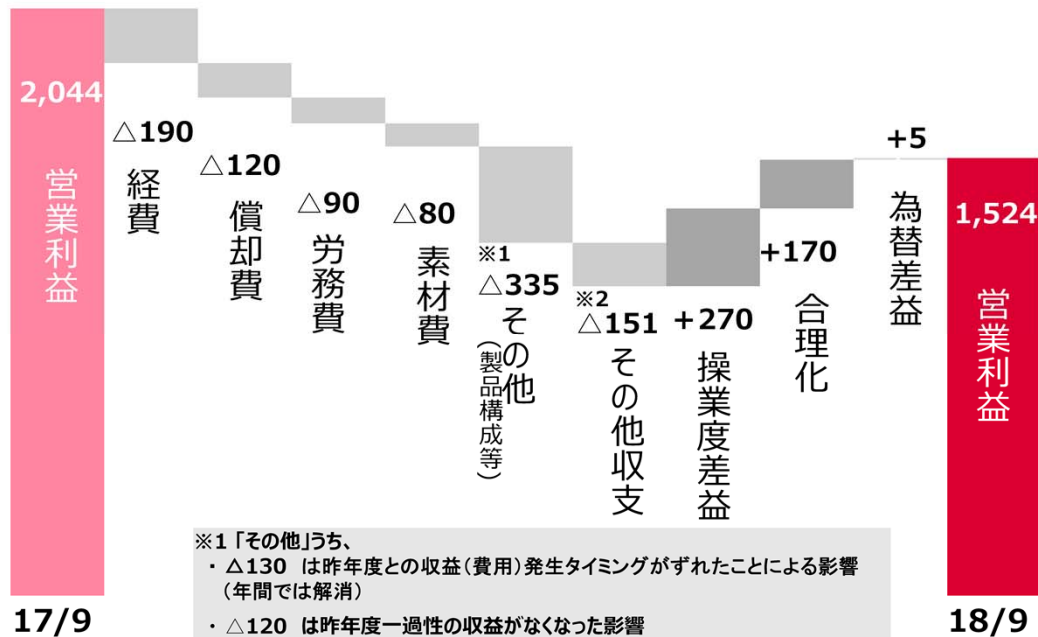
モビリティシステム製品

日本での予防安全製品の装着率拡大、
北米でのディスプレイ製品の拡販により、増収

なお、昨年11月のデンソー・TDMの子会社化、
昨年7月のTDMの子会社化に伴い、
電子システム製品や非車載事業なども大きく増収

2019年3月期 第2四半期 営業利益増減要因（前年比）

【単位：億円】



※1「其他」うち、
 ・△130 は昨年度との収益(費用)発生タイミングがずれたことによる影響 (年間では解消)
 ・△120 は昨年度一過性の収益がなくなった影響

※2「其他収支」うち、
 ・△120 は昨年度に子会社化したTDモバイル社の株式評価益の影響

DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会/ 2018.10.31
 © DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

6 / 27

< 営業利益の増減要因 >

17年9月期からの主な増減要因は下記の通り。

マイナス要因

- 経費 ▲190億円、償却費▲120億円：将来の成長領域へ向けた投入
- 労務費▲90億円：主に日本での昇給や賞与の増加
- 其他▲335億円：前期の一過性収益がなくなったことによる影響
また、前期との開発費用の回収タイミングのズレによる影響があるものの年間では縮小見込み
- 其他収支▲151億円：17年度に、TDモバイルを子会社化した際に発生した株式の評価益の影響等

プラス要因

- 操業度差益 +270億円：生産の増加や拡販
自然災害により40億円の操業度差損が発生したが、上期全体としては、生産の増加や拡販により、日本を含むすべての地域で前年の操業度を上回ることができた。

合理化努力 + 170億円：コストダウンや生産性向上

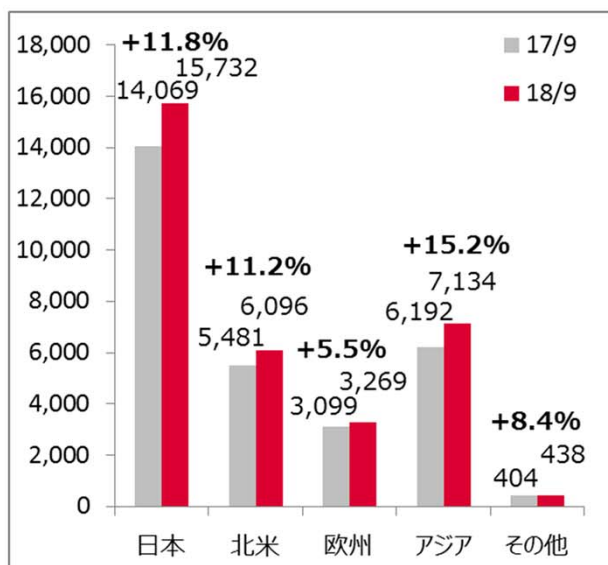
以上により、18年9月期における営業利益は、1,524億円。

2019年3月期 第2四半期 所在地別セグメント情報（前年比）

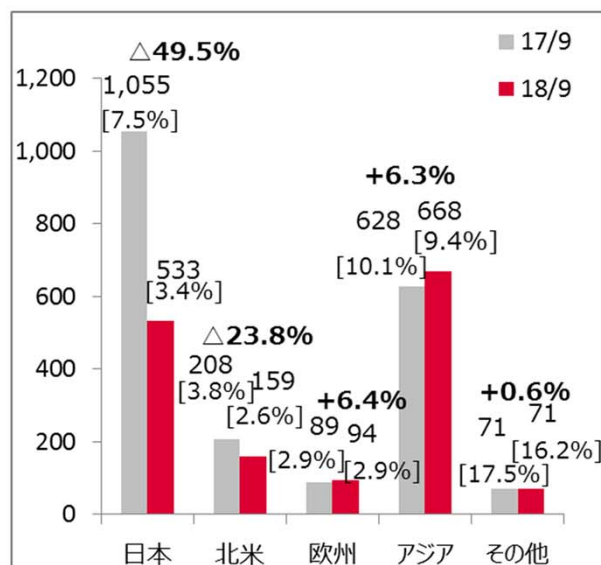
現地通貨ベース

[単位：億円]
[]は営業利益率

売上収益



営業利益



DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会 / 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

7 / 27

<地域別売上・営業利益（現地通貨ベース）>

日本

-売上収益（前年度比+11.8%）

自然災害の影響もあったものの、予防安全製品の装着率拡大、デンソーテン子会社化の影響により、増収

-営業利益（前年度比▲49.5%）

車両生産の増加や合理化努力があったものの、将来の成長領域へ向けた投入による費用の増加に加え、前期の一過性収益がなくなったことによる影響により、減益

日本以外

-売上収益

車両生産の増加や拡販により、全ての地域で増収。

-営業利益

車両生産の増加や生産性向上といった合理化が進んでいることなどにより、欧州及びアジアは増益。

北米については、合理化努力はあるものの、先行開発費用の増加や、生産能力増強のための投資などにより減益

2019年3月期 通期予想

()内は売上収益比

【単位：億円】

	18/6時予想		19/3期予想		18/6時予想比		18/3期実績		前年比	
					増減額	増減率			増減額	増減率
売上収益	54,000	54,000	-	-			51,083	+2,917	+5.7%	
営業利益	(7.2%) 3,900	(7.3%) 3,930	+30	+0.8%	(8.1%) 4,127	△ 197	△ 4.8%			
金融収支等 ^(※1)	370	370	0		372	△ 2				
税引前利益	(7.9%) 4,270	(8.0%) 4,300	+30	+0.7%	(8.8%) 4,499	△ 199	△ 4.4%			
当期利益 ^(※2)	(5.6%) 3,030	(5.6%) 3,050	+20	+0.7%	(6.3%) 3,206	△ 156	△ 4.9%			
前提条件	為替レート	1ドル 106円	1ドル 110円	4円 円安		1ドル 111円	1円 円高			
		11-0 130円	11-0 130円	-		11-0 130円	0円 円安			
	国内車両生産	958万台	957万台	△1万台	△0.1%	937万台	+20万台	+2.1%		
	海外日系車生産 (内、北米)	2,095万台 (594万台)	2,069万台 (592万台)	△26万台 (△2万台)	△1.2% (△0.3%)	2,015万台 (603万台)	+54万台 (△11万台)	+2.7% (△1.8%)		

(※1) 金融収益、金融費用、為替差損益、持分法による投資利益 (※2) 親会社の所有者に帰属する当期利益

DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会 / 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

8 / 27

<通期予想>

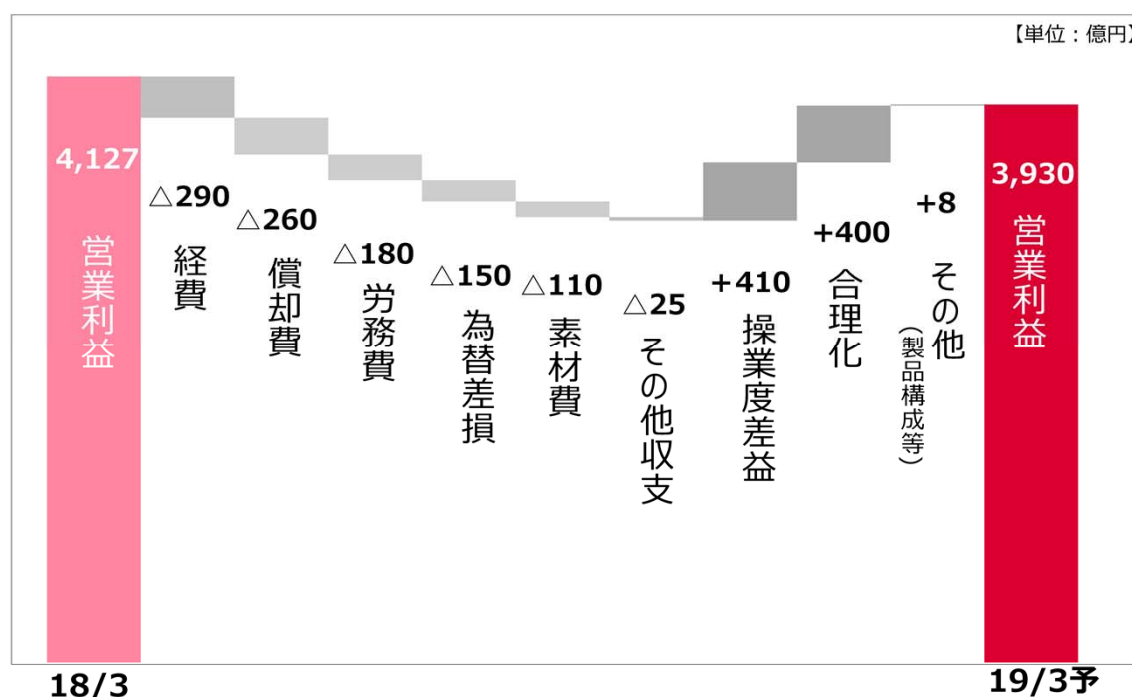
第2四半期の業績及び為替の実績等を踏まえ、

- ・売上収益：5兆4,000億円

- ・営業利益：3,930億円

- ・通期前提レートは ドル110円、ユーロ130円

2019年3月期通期予想 営業利益増減要因（前年比）



DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会 / 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

9 / 27

< 営業利益の増減要因予想 >

18年3月期からの主な増減要因は、下記の通りです。

マイナス要因

将来の成長に向けた投資の加速などによる、経費、償却費、労務費などの増加や為替の影響により、マイナス1,015億円。

プラス要因

操業度差益や合理化努力等、により、プラス 818億円。

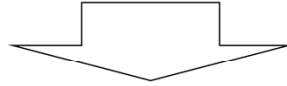
以上により、19年3月期の営業利益は、前年比 197億円減少し、3,930億円となる見込みです。

株主還元

【株主還元方針】

持続的な事業成長を果たし、企業価値を高めるための投資
(設備、研究開発、M&A)を行うとともに、

1. 連結業績および配当性向・配当金額を勘案し、長期安定的に配当を実施
2. 資金状況、市場環境を考慮の上、機動的、継続的に自己株式を取得



『自己株式取得』を実施。(本日10/31の取締役決議事項)

- ・目的 : 株主の皆様への一層の利益還元と資本効率向上のため
- ・上限 : 6百万株 or 300億円

併せて612万株の自己株式消却も決議

<株主還元>

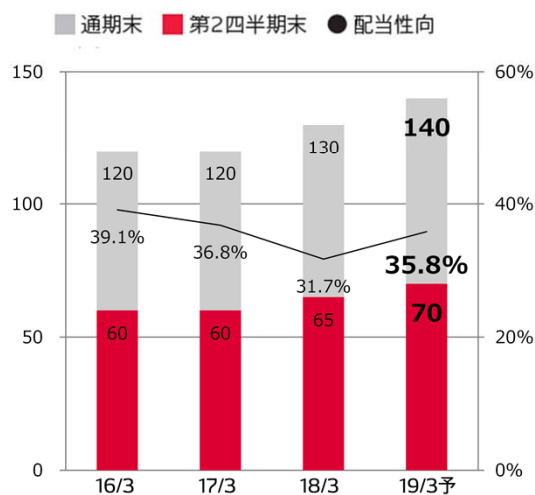
株主の皆様への一層の利益還元と資本効率向上のため、

- ・ 6百万株・300億円を上限として、
自己株式を取得することを10/31の取締役会にて決議
- ・ 612万株の自己株式を消却することを決議

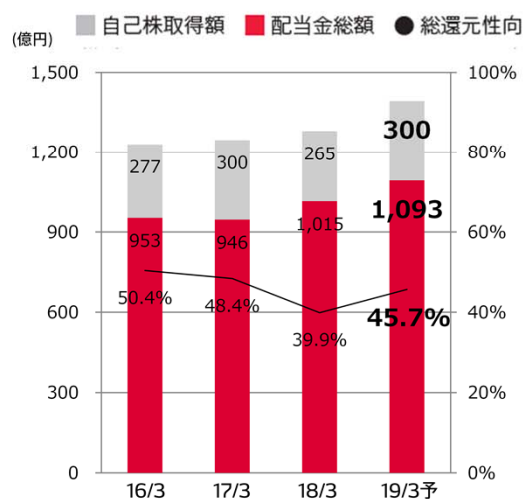
株主還元

19/3期：当初公表より10円増配の140円を予定

1株当たり配当金／配当性向



総還元額及び総還元性向



<株主還元>

配当金については、

- ・ 中間配当・期末配当ともに、5円ずつ増配
- ・ 年間では当初予想から10円増配の140円

今後とも、企業価値の向上に努めるとともに、
配当および自己株式取得による一層の株主還元を
図ってまいります。

II. 目標達成に向けた取り組み

(1) デンソーグループ 2030年長期方針

地球に、社会に、すべての人に、笑顔広がる未来を届けたい。

2030年の目指す姿

地球にやさしく、すべての人が安心と幸せを感じられるモビリティ社会の実現に向け、新たな価値を創造し続ける企業

環境

未来のために、
もっと豊かな環境を。

安心

どこまでも安全に、
いつまでも心地よく、すべての人へ。

共感

モビリティ社会に新たな価値を。
人に笑顔を。



DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会/ 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

13 / 27

<デンソーグループ2030年長期方針>

「地球に、社会に、すべての人に、笑顔広がる未来を届けたい」という想いを実現するべく、より具体的な実行計画として21年中期方針を策定し、まさに成長に向けた取り組みを加速しています。

(2) デンソーグループ 2021年中期方針

1. 新たな価値創造に向けた挑戦

- (1) 車両統合プラットフォームでデファクト化をすすめ、電動化・自動運転をリード
- (2) モビリティサービスで新たな価値とビジネスモデルを創出
- (3) FA・農業分野を新事業の柱と位置づけ
- (4) 世界中のイノベーション震源地で、アジャイルに新製品を創出

2. 次の成長を支える収益力の強化

- (1) 小さな本社と事業部・国内外グループ会社の進化により、スピード経営を実践
- (2) キーデバイスの革新技術、標準化により、競争力の源泉を確立
- (3) ダントツ工場の更なる進化とF-IoTにより、桁違いの現場力を体得
- (4) パートナーとの共創とプロセス革新により、開発の倍速化と高収益体質を実現

3. 経営基盤の変革

- (1) 社是の精神を継承し、知能化・情報化等、新たな領域においても盤石な安全品質基盤を構築
- (2) やる気に満ちた人づくりと先端ITの活用にて、個の力を引き出し、スピードと現場の活力を最大化
- (3) サプライチェーン全体でリーンな生産システムを構築し、モノづくり競争力を強化
- (4) 持続可能な社会づくりに貢献する為に、SDGs/ESGを意識して事業を展開

DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会/ 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

14 / 27

<デンソーグループ2021年中期方針>

- ・ 「新たな価値創造に向けた挑戦」
電動化、自動運転の技術開発の強化、
将来モビリティサービスを見据えた
新たなプラットフォームの開発。
- ・ 「次の成長を支える収益力の強化」
ECU、センサ、半導体、モータといった
キーデバイスの技術革新。
ダントツ工場とF-IoTのグローバル展開。
- ・ 「経営基盤の変革」
やる気に満ちた人づくりや先端ITの活用で、
個の力を最大限に引き出すことによる、
スピードと現場の活力の最大化。

すべての人が安心と幸せを感じられるモビリティ社会の実現に向け、このような取り組みを加速していきたいと思います。

(3) 共感 - トヨタグループ連携強化 -

■環境変化

100年に一度の大変革時代
猛烈なスピードと異業種も含めた競争激化



勝ち負けでなく

生きるか死ぬか

社会課題



**トヨタグループの力を結集し、自動運転・電動化の普及で
未来のモビリティ社会の創造に貢献**

DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会/ 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

15 / 27

<トヨタグループ連携強化>

自動車業界は、自動運転、電動化、コネクティッドという、100年に一度という大変革時代の真っ只中にあります。

取り巻く環境は、すさまじいスピードで変化しており、

我々はまさに、「勝つか負けるか」ではなく、

「生きるか死ぬか」という待ったなしの状況にあります。

当社とトヨタ自動車は、トヨタグループの「ホーム&アウェイ」の考え方に基づいて、電子部品事業の当社への集約に合意しましたが、サプライヤー同士でも同様に、内向きではなく、外と闘っていく体制を整えなければならない時を迎えています。

そこで今回、トヨタグループのサプライヤーで、自律的に総力を結集し、

新たな一步を踏み出すことを決断しました。これは、グループ各社の強みやノウハウを持ち寄り、

言わば、新たな「ホーム」をつくらうという取り組みです。

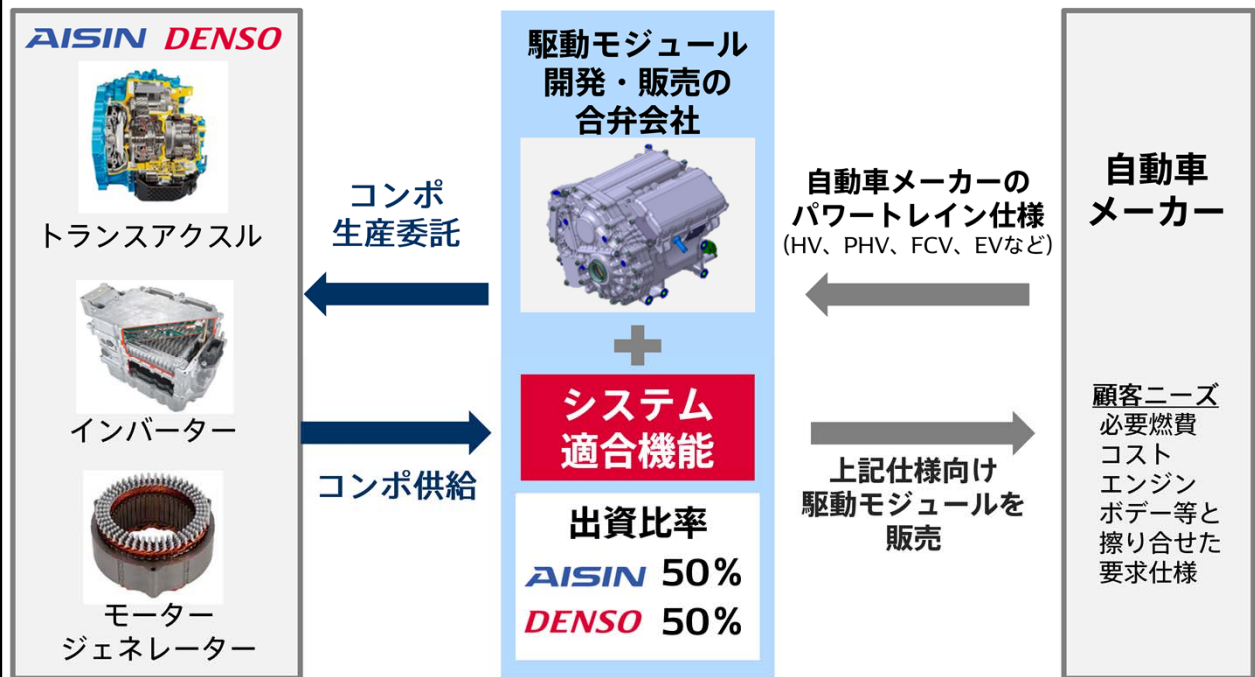
自動運転の実現と電動化の加速につながる製品や技術を

より多くのお客様に届けることで、「普及」につなげ、

未来のモビリティ社会の創造に貢献していきたいと考えています。

(3) 共感 - トヨタグループ連携強化 ①電動化 -

駆動モジュール開発・販売の合併会社の設立



持続可能な社会の実現に向けた電動化の加速に貢献

DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会 / 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

16 / 27

<トヨタグループ連携強化①電動化>

駆動モジュールの開発・販売の合併会社設立

電動化の「普及」には、EV、ハイブリッドといったお客様の様々なニーズに応える駆動モジュールが必要です。

当社とアイシン精機はこれまで、トランスアクスルやインバータ、モータなど電動化に必要なキーコンポーネントの競争力を磨き、幅広いお客様に提供してきました。

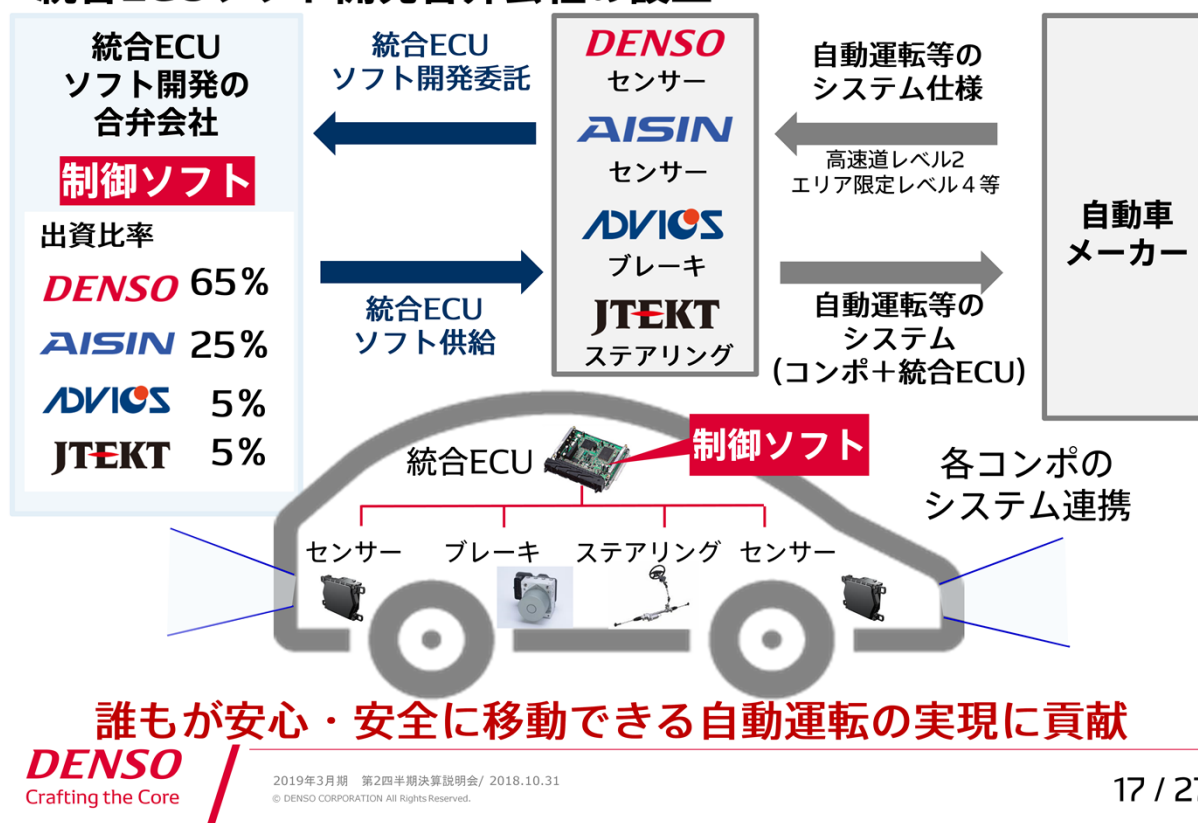
今回の合併会社の役割は、HV・PHV・FCV・EVなど幅広い電動化ニーズに対応できる駆動モジュールの品揃えをすることです。

そして、お客様のエンジン仕様に合わせて「システム適合」し、EV市場の急拡大が見込まれる中国をはじめ、世界各地域への「普及」を目指していきます。

両社の強みを掛けあわせた駆動モジュールの提案により、お客様の幅広いニーズに合わせた電動化を普及させることで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

(3) 共感 - トヨタグループ連携強化 ②自動運転 -

統合ECUソフト開発合併会社の設立



<トヨタグループ連携強化②自動運転>

統合ECUソフトウェア開発の合併会社設立

自動運転の普及には、人の命を守る、極めて信頼性の高い商品の提供が必要不可欠です。

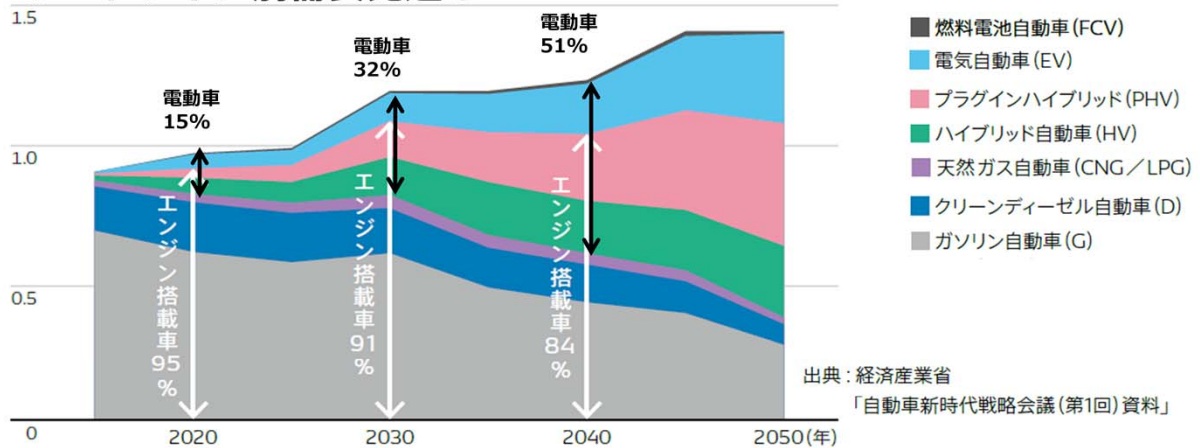
そのためには、クルマの「見る、走る、曲がる、止まる」に関わるセンサやステアリング、ブレーキを、高度に組み合わせ「判断する」統合ECUが必要です。そしてそのキーとなるのが制御ソフトウェアです。

そこで、当社と、アイシン精機、アドヴィックス、ジェイテクトの4社で各社が持つ自動運転領域の知見を結集し、より信頼性の高い、統合ECUの制御ソフトウェアを開発するために、合併会社を設立します。この合併会社の役割は、自動車メーカーからの仕様にに基づき、4社からの開発委託を受けて、統合ECUの制御ソフトウェアを開発し、供給することです。4社は、この制御ソフトウェアを載せた統合ECUと、各社が持つコンポーネントを組み合わせ、自動運転などのシステムを、自動車メーカーに販売します。

各社の強みを結集し、高度運転支援のレベル2から、完全自動運転のレベル4までを視野に入れ、誰もが安心・安全に移動できる自動運転の「普及」に貢献していきます。

(4) 「環境」分野 - 環境認識 -

パワートレイン別需要見通し



事業環境

各国の規制強化を契機に
**電動化が
緩やかに進展**

電動化の進展あるも
**OEM毎に
開発ニーズ多様化**

新興国で安価な
環境車としての
内燃機関ニーズが継続

DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会/ 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

18 / 27

< 環境分野 >

事業環境認識

各国の燃費規制導入の動向に合わせ、先進国では、パワートレインの電動化が進みますが、当面は電動化車両の中でも、ハイブリッド車等の内燃機関付き車両が主流であることが想定されます。カーメーカーごとに開発ニーズも多様化してきます。

また、新興国では安価な環境車としての内燃機関ニーズが継続することが想定され、引き続き内燃機関の高効率化、クリーン化も求められています。

(4) 「環境」分野 - 取り組みの重点 -

提供価値 環境負荷の低減と高効率な移動の実現 ⇒ エコドライブ

1. 長年培った電動化技術・供給実績で、電動化を牽引

- ・ 技術進化（高出力、SiCなど）
- ・ 標準化（MG、インバータ）
- ・ グローバル供給能力（日・米・中での供給実績）

2. 電動化に対応した内燃機関技術の開発

- ・ 熱効率向上（希薄燃焼、低冷損、電動システムとの最適化）
- ・ 排ガス浄化システム（触媒用基材、システムの簡素化）

3. 車両トータルのエネルギーマネジメント技術の開発

- ・ 熱マネジメント（空調、廃熱利用）
- ・ 電力マネジメント（充電、回生）

DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会/ 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

19 / 27

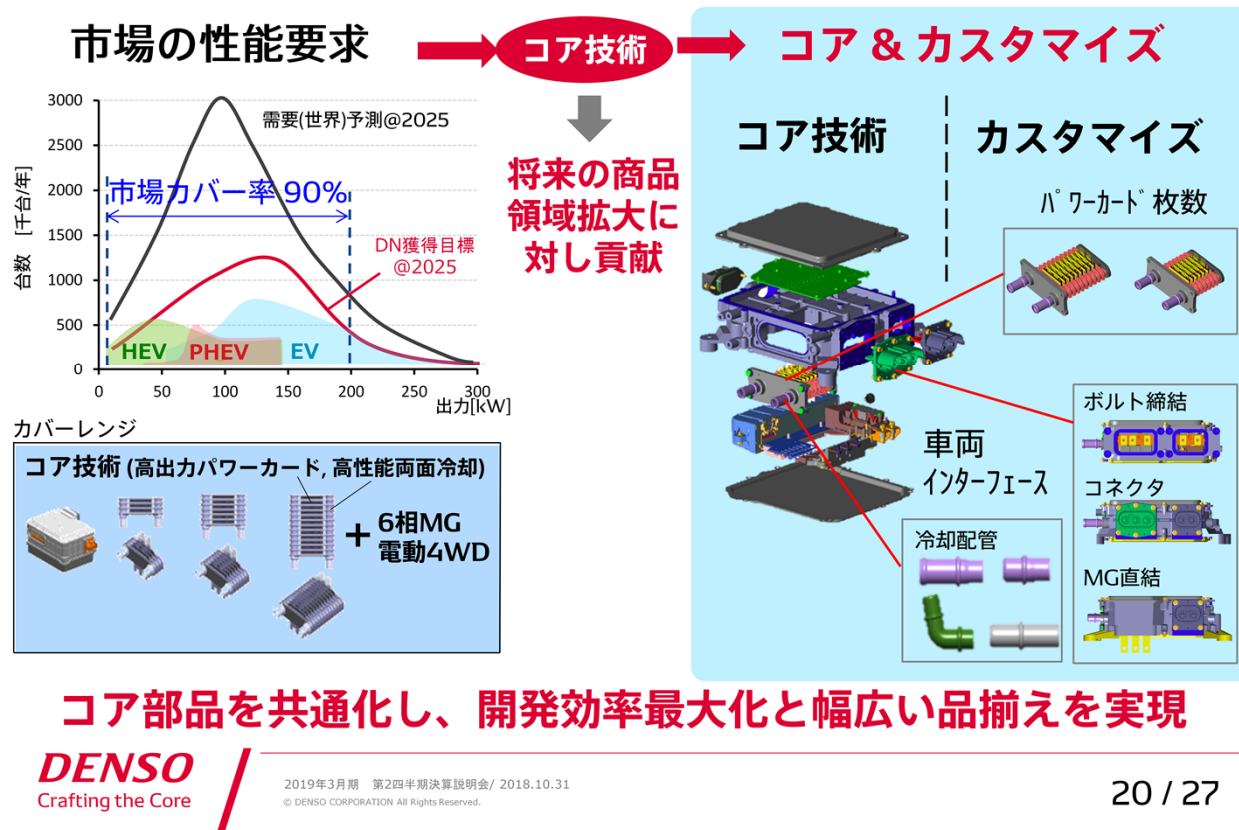
<環境分野>

このような事業環境の中、
デンソーは、長年培ってきた技術や供給実績で
電動化市場を牽引するとともに、

燃費改善技術やクリーンな内燃機システムの開発など、
従来エンジン技術も引き続き磨き上げながら

環境負荷の低減と高効率な移動を実現していきます。

(4) 「環境」分野 - 共通化による開発効率向上 -



<環境分野>

電動化の取り組み事例

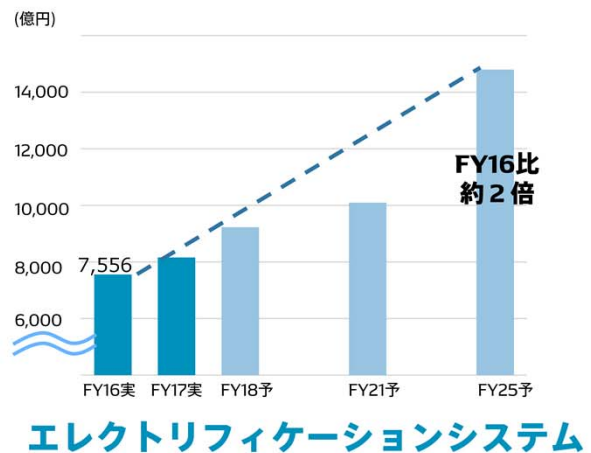
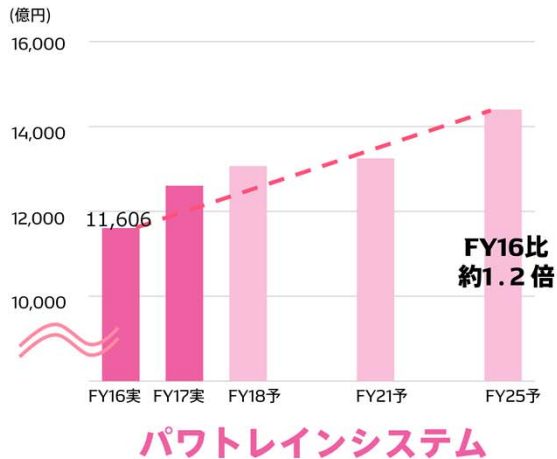
当社にはインバータで、世界に先駆けて磨き上げてきたコア技術の蓄積と、世界トップレベルの量産実績があります。開発にあたっては、市場の性能要求を把握した上で、コア技術である高出力パワーカードと両面冷却技術の開発により、インバータの小型化、高性能化を実現してきました。

今後、HVやEVなど、それぞれの性能に応じたインバータの品揃えが求められます。

コア技術を共通利用できるモジュール構造を採用し、パワーカードの枚数を調整することで、HV、PHV、EVそれぞれに必要な出力に対応可能としております。これにより、車両とのインターフェースをカスタマイズするだけで、幅広い品揃えに対応できます。

コア技術の共通化で開発効率を高め、品揃えを拡大し、お客様の商品領域拡大に対し貢献していきます。

内燃機関からFCVまで社会ニーズにこたえる全方位開発



内燃機関の効率向上 + **電動化の普及促進**
最適組み合わせで事業成長

DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会 / 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

21 / 27

<環境分野>

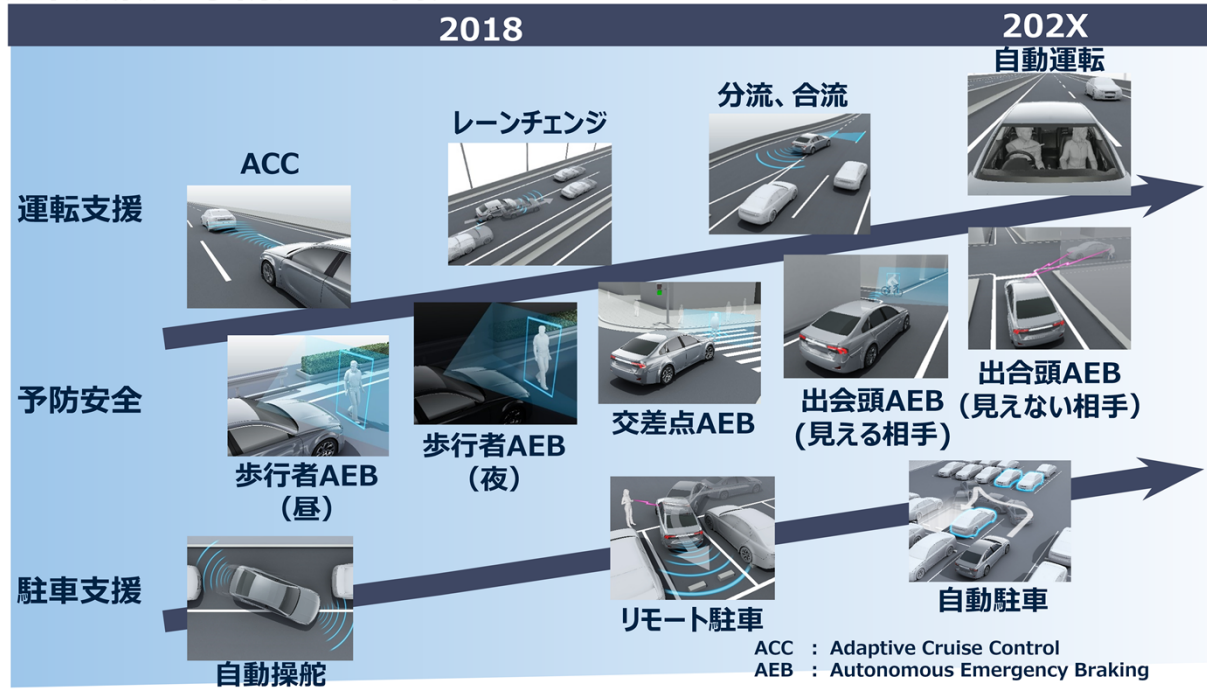
デンソーはお客様と社会のニーズに応えるため、パワートレインを全方位で開発していきます。

2025年度の売上目標は電動化分野であるエレクトリフィケーションシステムは16年度比で2倍と、大きく成長させてまいります。内燃機関分野であるパワートレインシステムも16年度比1.2倍とまだまだ事業成長が望める分野です。

「内燃機関の効率向上」と、「電動化の普及促進」を最適に組み合わせることで、事業成長を続けてまいります。

(5) 「安心」分野 - 環境認識 -

運転支援・予防安全 開発ロードマップ



「安心・安全に移動できるモビリティ社会」を目指し、「交通事故ゼロ」に貢献

DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会/ 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

22 / 27

<安心分野>

デンソーでは、交通事故のない、安心・安全に移動できるモビリティ社会を実現するため、運転支援の機能を更に高度化するとともに、予防安全や駐車支援においても、安全性や利便性を高めてまいります。

(5) 「安心」分野 先進安全・自動運転 - 取り組みの重点 -

提供価値 交通事故のない安全な社会と快適で自由な移動の実現

1. システムでの取り組み、提案力強化

- ・ ADAS/ADシステム
- ・ コックピットシステム

2. オープンイノベーションによる開発

- ・ 産官学アライアンス強化
- ・ 認知・判断のための センサ・アルゴ開発
- ・ 高性能半導体開発

3. AI研究の強化

- ・ 車載できるアルゴ開発
- ・ 品質保証

DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会/ 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

23 / 27







<安心分野>

車両システム視点で価値提供するための組織の起ち上げ、将来に向けたADASシステムやコックピットシステムの開発など、取り組みを進めています。

また、開発にあたっては、全てを自社のみで開発するのではなく、先端技術をもつ多くの会社とのパートナーシップを通じ、スピード感のある開発を行ってまいります。

(5) 「安心」分野 - 技術獲得の取り組み：実証による課題抽出 -

デンソーが独自に実施する実証実験

自動車専用道	一般道	限定地域Lv4
<p>2014年 南知多道路 名古屋高速</p> 	<p>2017年 網走 一般道</p> 	<p>2014年 久米島</p> 
<p>2017年 ミシガン 2018年 ミュンヘン</p> 	<p>2018年 刈谷、東京</p> 	<p>2018年 狭小駐車場</p> 

様々な環境で走行を重ね課題を抽出し技術開発へフィードバック



2019年3月期 第2四半期決算説明会 / 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

24 / 27

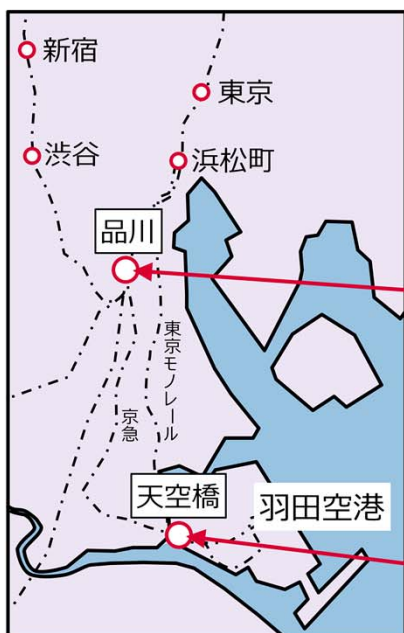
<安心分野>

自動運転の取り組み事例

自動運転においては、道路環境、天候など、様々な環境下での使用状況に応じた開発が必要となります。

デンソーでは様々な環境で独自に走行を重ね、自動運転に必要な課題を抽出し、技術開発を進めております。

(5) 「安心」分野 次世代モビリティ社会の実現に向けて



STEP 1

お客様やパートナーとの共創により、先端技術・先進モビリティシステムの企画・開発・実証を加速させ、先進モビリティシステムの早期市場投入

18年4月

Global R&D Tokyo 開設



STEP 2

モビリティシステム開発と実証(公道含む)を東京地区で実施

20年6月

羽田空港跡地第1ゾーンに、テスト路を備えたモビリティシステムの開発棟とオフィスを開設

DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会/ 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

25 / 27

<安心分野>

各地域での公道での実証実験を進めるとともに次世代モビリティ社会の実現に向け、東京での先進モビリティシステムの開発と実証を加速させます。

当社は、2018年4月に東京都港区に、自動運転領域の研究開発オフィス、「Global R&D Tokyo」を開設し、車両メーカー、大学や研究機関、スタートアップ企業など様々なパートナーとの連携し、オープンイノベーションを強化しています。

また、このたび東京羽田空港隣接地に自動運転技術の試作開発、実証を行う新拠点を、2020年6月に開設することを決定しました。

(5) 「安心」分野 次世代モビリティ社会の実現に向けて テスト路、開発棟、オフィスのイメージ



- ・自動運転を核としたモビリティシステム開発と公道実証試験
- ・大田区のモノづくり企業など、様々な企業との連携

DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会 / 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

26 / 27

<安心分野>

今回、新たに開設する施設は、
試作や車両整備を行う開発棟と実証用のテスト路を持ち、
Global R&D Tokyoで企画、研究開発する自動運転技術を、
羽田で施策開発、実証を行い、
東京エリアで完結できる体制を構築します。

デンソーは、
これからも安心・安全および
環境分野の技術や製品の開発に注力し、
人々の生活を豊かにする新たなモビリティ社会を実現していきます。

(6) サステナビリティへの取り組み

環境

目指す姿と優先取組課題

環境負荷の低減と高効率な移動を実現し、地球にやさしく持続可能な社会づくりに貢献

- ・ 地球温暖化防止
- ・ 大気汚染防止／環境負荷物質削減
- ・ 資源有効利用
- ・ 水資源の保全



安心

目指す姿と優先取組課題

交通事故のない安全な社会と快適で自由な移動の実現。全ての人々が安心して暮らせる社会づくりに貢献

- ・ 安心安全な製品提供
- ・ 交通事故低減
- ・ 少子高齢化への対応



企業基盤

目指す姿と優先取組課題

- ・ 高い倫理観を持って公正誠実に行動
- ・ 健康でいきいきと安心して働くことができる様、人づくり、組織づくり、環境づくりを推進
- ・ 全ステークホルダーの人権を尊重した事業活動

- ・ コンプライアンス
- ・ 情報セキュリティ強化
- ・ 持続可能な調達
- ・ 人材活躍推進 (多様性促進)
- ・ 健康／労働安全衛生
- ・ 働き方改革
- ・ 人権の保護



地球にやさしく、すべての人が安心と幸せを感じられるモビリティ社会を実現

DENSO
Crafting the Core

2019年3月期 第2四半期決算説明会/ 2018.10.31
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

27 / 27

<サステナビリティ経営>

デンソーでは社会課題の解決を通じて、企業の持続的な成長をするため、企業として取り組むべき優先取組課題を抽出し、それに向けた長期的な目標とKPIの設定を進めています。

今後この取り組みを強化し、SDG'sの目標達成への貢献を通じて、持続可能な社会と、地球にやさしく、すべての人が安心と幸せを感じられるモビリティ社会の実現を目指していきます。

DENSO
Crafting the Core

参考資料

- ・前提となる為替レート／車両生産台数
- ・得意先別売上
- ・製品別売上
- ・所在地別セグメント情報(円貨ベース)
- ・設備投資・償却費・研究開発費の推移
- ・地域別 設備投資・償却費・研究開発費

前提となる為替レート／車両生産台数

		上期					下期					19/3通期				
		前年実績	当初予想	1Q時予想	当年実績	前年比	前年実績	当初予想	1Q時 予想	最新予想	前年比	前年実績	当初予想	1Q時予想	最新予想	前年比
		為替レート (円)	USD	111	105	107	110	1円 円高	111	105	105	110	1円 円高	111	105	106
	EUR	126	130	130	130	4円 円安	133	130	130	130	3円 円高	130	130	130	130	0円 円安
1円変動の 利益影響額 (億円)	USD											25	25	25	25	0
	EUR											10	10	10	10	0
日系車両生産 台数 (万台)	国内	454	450	457	447	△ 1%	484	500	500	510	+ 5%	937	951	958	957	+ 2%
	北米	301	301	291	290	△ 4%	302	303	303	302	△ 0%	603	604	594	592	△ 2%
	海外日系車	989	1,034	1,043	1,023	+ 3%	1,026	1,052	1,052	1,046	+ 2%	2,015	2,087	2,095	2,069	+ 3%

得意先別売上

【単位：億円,%】

区分	18/9期実績 (累計)		17/9期実績 (累計)		増減	増減率	為替除く 増減率
	金額	構成比	金額	構成比			
トヨタ	11,036	42.0	9,673	40.9	1,363	14.1	14.6
ダイハツ	593	2.3	530	2.2	63	11.9	13.7
日野自動車	323	1.2	281	1.2	42	15.0	15.0
トヨタグループ計	11,952	45.5	10,484	44.3	1,467	14.0	14.5
ホンダ	1,992	7.7	1,796	7.6	195	10.9	11.5
FCA	1,147	4.4	1,138	4.8	9	0.8	2.6
GM	1,093	4.2	885	3.8	208	23.5	24.0
フォード	694	2.6	734	3.1	△ 39	△ 5.4	△ 5.0
現代・起亜	644	2.5	671	2.8	△ 27	△ 4.0	△ 5.6
マツダ	590	2.2	554	2.4	36	6.6	6.2
スズキ	585	2.2	558	2.4	28	5.0	7.5
SUBARU	528	2.0	475	2.0	53	11.2	11.4
日産自動車	502	1.9	468	2.0	34	7.3	7.0
VW・AUDI	425	1.6	384	1.6	41	10.8	7.9
三菱自動車	306	1.2	242	1.0	64	26.7	25.8
いすゞ	300	1.1	269	1.1	31	11.6	10.2
BMW	219	0.8	205	0.9	13	6.4	4.0
ボルボ	207	0.8	177	0.8	30	17.2	14.3
PSA	163	0.6	144	0.6	19	13.2	9.7
ベンツ	156	0.6	175	0.7	△ 19	△ 10.7	△ 12.9
その他メーカー	1,756	6.7	1,563	6.6	193	12.4	11.6
OEM計	23,258	88.6	20,920	88.5	2,339	11.2	11.4
※ 市販・非車載事業 ※	2,991	11.4	2,715	11.5	276	10.2	10.9
合計	26,250	100.0	23,635	100.0	2,615	11.1	11.3

※ OES(メーカー補給含む)、一般市販、新事業、設備売上等を含む

製品別売上

【単位：億円,%】

区分	18/9期 実績		17/9期 実績		増減	増減率	為替除く 増減率
	金額	構成比	金額	構成比			
サーマルシステム	7,098	27.0	7,111	30.1	△ 13	△ 0.2	0.7
パワトレインシステム	6,347	24.2	6,043	25.5	305	5.0	4.7
エレクトリフィケーションシステム	4,017	15.3	3,897	16.5	120	3.1	3.0
モビリティシステム	4,096	15.6	2,730	11.5	1,367	50.1	49.6
電子システム	3,262	12.5	2,969	12.6	293	9.9	10.4
その他 ※	505	1.9	301	1.3	204	67.9	72.0
自動車分野計	25,325	96.5	23,050	97.5	2,276	9.9	10.1
非車載事業（FA・農業、他）計	924	3.5	585	2.5	340	58.0	59.1
合計	26,250	100.0	23,635	100.0	2,615	11.1	11.3

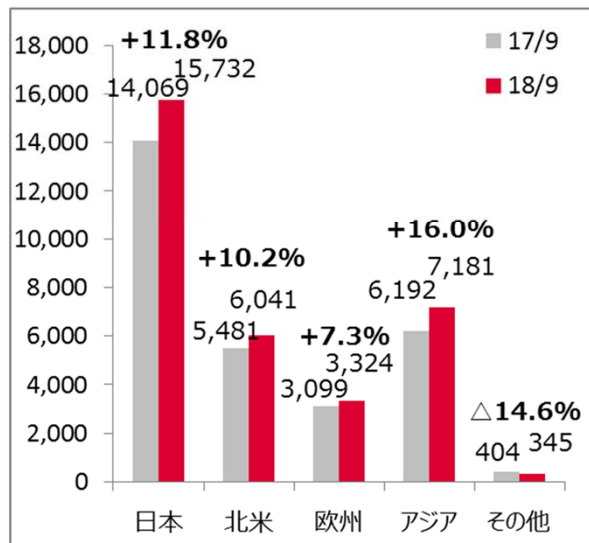
※ 設備売上、補修品、子会社向け「カプラント」製品等を含む

所在地別セグメント情報

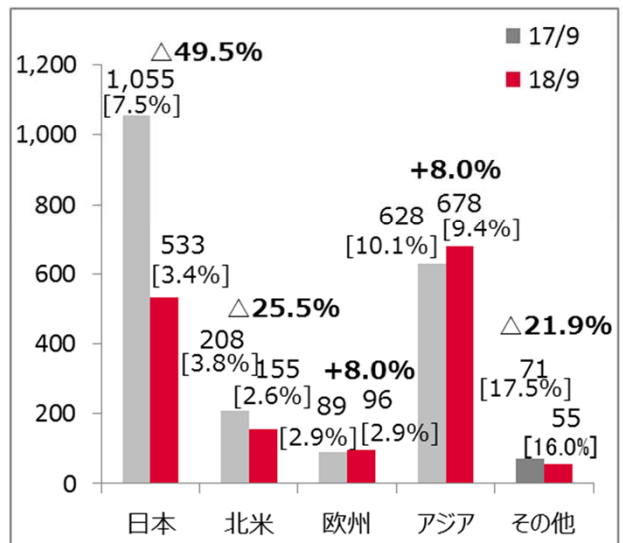
前年比 円貨ベース

【単位：億円】
[]は営業利益率

売上収益



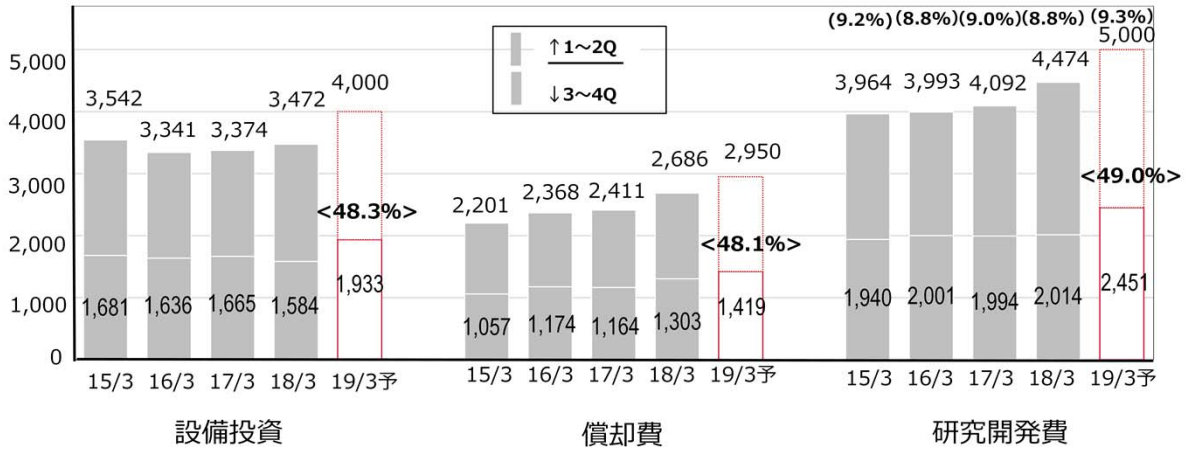
営業利益



設備投資・償却費・研究開発費の推移

[億円]

< > 19/3予に対する進捗率 () 売上収益比



地域別 設備投資/償却費、研究開発費

【単位：億円】

		18/3期		19/3期		18/9期	
		17/9期	実績	18/9期	予想	増減率	進捗率
設備投資	日本	1,063	2,177	1,169	2,400	10.0%	48.7%
	北米	162	438	320	625	97.5%	51.2%
	欧州	138	308	114	320	△17.4%	35.6%
	アジア	213	527	317	630	48.8%	50.3%
	その他	8	22	13	25	62.5%	52.0%
	合計	1,584	3,472	1,933	4,000	22.0%	48.3%
償却費	日本	752	1,547	826	1,725	9.8%	47.9%
	北米	159	324	181	355	13.8%	51.0%
	欧州	104	222	118	260	13.5%	45.4%
	アジア	274	564	283	585	3.3%	48.4%
	その他	15	28	10	25	△33.3%	40.0%
	合計	1,303	2,686	1,419	2,950	8.9%	48.1%
研究開発費 (売上収益比)		2,014 (8.5%)	4,474 (8.8%)	2,451 (9.3%)	5,000 (9.3%)	21.7%	49.0%